# rsync 転送元のパス(絶対パス)を転送先ディレクトリで維持したい(階層構造を維持したい)

結論からいうと、R(大文字)オプションを使えば良い。
# rsync -avR /var/log /backup/

実行完了イメージ
- /backup
　　|- var
　　|　|- log
　　|　|　|- boot.log
　　|　|　|- auth.log
　　|　|　|-　　:
　　|　|　|-　　:
　　|　|　|-  ntpstats
　　|　|　|　|- xxxxx
　　|　|　|　|-　:
　　|　|　|　|-　:

手間を省きたい時に便利。大文字Rオプションを使わないと、
事前(初回)に、
# mkdir -p /backup/var/log
 しておいて
# rsync -av /var/log/ /backup/var/log/
と、ひと手間増えるだけ。

ただ、バック対象ディレクトリが増えていけば、このひと手間が面倒くさい

(物理サーバーで)障害等の復旧の場合、
 ・同じ機種に)全戻しであれば、rsync
を使う場合もあるが、ディスクイメージを取得しておくか、dump/restoreコマンドになるだろう。
 ・違う機種の全戻しであれば、rsyncで、クリーンインストール後に /dev や /sys 等以外のディレクトリを戻す。

しかし、バックアップ領域を十分に確保出来ない場合、
一つの選択として、クリーンインストールから設定ファイルや作り込んだスクリプトを戻せたら良い！
とした場合、
rsync で 必要なファイル/ディレクトリを保存しておく。
往々にして、バックアップしておくのを忘れた〜という事にもなるのだが。

著者のrsyncでのバックアップ対象は、
・ /etc 配下
・ /root 配下
・ /home 配下
(makeした際のディレクトリは、excludeオプションで除外。しかし、config.log/config.statusはバックアップ対象)
・ /opt
・ /var/log 配下
(後追いでログ確認用。ただ、バックアップ周期に兼ね合いで、障害直前のログは取得出来ていないので気休め)
・ /var/spool 配下
などである。

 添付ファイル::

一意的なソリューション ID: #1009
製作者: n/a


© 2026 netstaff <netstaff@chovits.net> | 2026-11-22 23:27
URL: https://www.chovits.jp/phpmyfaq/content/0cat=1/10/ja/rsync-転送元のパス絶対パスを転送先ディレクトリで維持したい階層構造を維持したい.html

最終更新: 2022-05-31 12:17


© 2026 netstaff <netstaff@chovits.net> | 2026-11-22 23:27
URL: https://www.chovits.jp/phpmyfaq/content/0cat=1/10/ja/rsync-転送元のパス絶対パスを転送先ディレクトリで維持したい階層構造を維持したい.html